



WAMは福祉と医療の民間活動を応援します

令和4年4月4日
独立行政法人福祉医療機構
経営サポートセンター長 坪井 七夫
経営サポートセンター
リサーチグループリーダー 松本 庄平
担当 高橋・佐藤 (電話) 03-3438-9932
(FAX) 03-3438-0371

病院経営動向調査(2022年3月)の結果について

独立行政法人福祉医療機構では、今後の病院経営や医療政策の適切な運営に寄与するため、病院経営における現場の声・実感や定期的な経営動向の変化を調査する仕組みとして、2019年から病院経営動向調査を四半期毎(3月、6月、9月、12月)に実施しています。今回は2022年3月に実施した本調査の結果についてご報告します。詳細はホームページ(<https://www.wam.go.jp/hp/hp-survey/>)に掲載しております。

1. 調査の概要

- 対象：病院(336施設)を運営する法人253法人(うち、医療法人212法人)*法人調査対象は医療法人のみ
- 調査事項：病院および医療法人の収益・費用・利益、資金繰り、従事者数等に関する現在の状況と3ヶ月後の先行き予測、新型コロナウイルス感染症の影響
- 回答数：病院：235 医療法人：144 有効回答数：病院：235 医療法人：144
- 有効回答率：病院：69.9% 医療法人：67.9%
- 実施期間：2022年3月1日(火)～2022年3月23日(水)
- 実施方法：Web上で実施
- 集計方法：DI(景気変動を判断するための指標。各項目の第1選択肢の回答割合から第3選択肢の回答割合を差し引いて算出)に加工・集計して公表

2. 調査の結果

【病院の動向】

- 医業収益のDIは、一般病院が13(前回調査より4%ポイント上昇)、療養型病院が20(同12%ポイント上昇)および精神科病院が△33(同21%ポイント低下)となった。
- 医業収支(黒字・赤字)のDIは、一般病院が11(前回調査より5%ポイント上昇)、療養型病院が28(同9%ポイント低下)および精神科病院が10(同13%ポイント低下)となった。
- 資金繰りのDIは、一般病院が△4(前回調査より1%ポイント上昇)、療養型病院が6(同6%ポイント上昇)および精神科病院が△28(同9%ポイント低下)となった。
- 従業員数のDIは、一般病院が△36(前回調査より6%ポイント低下)、療養型病院が△41(同1%ポイント低下)および精神科病院が△53(同16%ポイント低下)となった。
- 経営上の課題について、前回に引き続き人件費の増加と職員確保難を挙げる声が多かった。

【医療法人の動向】

- 事業収益のDIは8(前回調査より2%ポイント上昇)、事業収支(黒字・赤字)のDIは26(同1%ポイント上昇)、資金繰りDIは△1(同1%ポイント上昇)、従業員数のDIは△44(同7%ポイント低下)となった。

【その他】

- 2021年度(2021年4月～2022年3月)において、医業収益(見込み)が増収となった病院の割合は、前年度(2020年度)比で47.2%、前々年度(2019年度)比で34.5%となった。一方、減収(1割以上減)となった病院の割合は前年度比で14.0%、前々年度比で22.6%となり、増収となった病院の方が多かった。
- 2021年度の医業収益(見込み)が前年度比で増収となった病院の割合は、新型コロナウイルス感染症患者(以下「コロナ患者」という。)の受入実績のある一般病院で53.4%、コロナ患者の受入実績のない一般病院で52.6%となった。
- 2021年度において、事業収益(見込み)が増収となった医療法人の割合は前年度比で47.2%、前々年度比で41.0%となった。
- コロナ患者を調査時点で受け入れている病院の割合は、一般病院で58.2%、療養型病院で20.4%、精神科病院で12.5%となった。
- 医療従事者へのワクチン接種(3回目)の状況は、コロナ患者の受入実績のある一般病院で93.2%、コロナ患者の受入実績のない一般病院で92.1%、療養型病院で94.4%、精神科病院で82.5%となった。

以上